

調 査 の 概 要

1 調査の目的

この調査は、同一客体を長年にわたって追跡する縦断調査として、平成 22 年に出生した子の実態及び経年変化の状況を継続的に観察するとともに、21 世紀の初年である平成 13 年に出生した子を継続的に観察している調査との比較対照等を行うことにより、少子化対策等の施策の企画立案、実施等のための基礎資料を得ることを目的としている。

2 調査の対象

全国の平成 22 年（2010 年）5 月 10 日から同月 24 日の間に出生した子を対象とし、厚生労働省が人口動態調査の出生票を基に調査客体を抽出した。双子、三つ子についてもそれぞれの子を対象としている。

第 3 回調査における対象児は 2 歳 6 か月である。

3 調査の時期

平成 24 年 12 月 1 日とした。

4 調査事項

母の就業状況、ふだんの保育者、保育サービスの利用状況、子育ての相談相手、子どもの朝起きる時間・夜寝る時間 等

5 調査の方法

調査票の配布及び回収は郵送により行った。

6 調査票の回収状況等

調査票の配布数及び回収数は次のとおりである。

	配布数	回収数	回収率
第 1 回	43,767	38,554	88.1%
第 2 回	38,523	33,356	86.6%
第 3 回	37,582	32,380	86.2%

7 集計客体数

同居者の構成、きょうだい数別にみた集計客体数は次のとおりである。

(単位:人)

	総数	1人 (対象児 本人のみ)	2人	3人以上
総数	32 380 (100.0)	10 924 (33.7)	15 282 (47.2)	6 174 (19.1)
父母と同居	31 182 (96.3)	10 285	14 899	5 998
父母又は父母ときょうだいのみ	26 194 (80.9)	8 902	12 514	4 778
父母のみ	8 902 (27.5)	8 902	・	・
父母ときょうだいのみ	17 292 (53.4)	・	12 514	4 778
父母と祖父・祖母	4 864 (15.0)	1 336	2 325	1 203
父母と母方の祖父母	1 663 (5.1)	533	784	346
父母と父方の祖父母	3 192 (9.9)	801	1 536	855
父母と両方の祖父母	9 (0.0)	2	5	2
父母とその他	124 (0.4)	47	60	17
父又は母と同居	1 189 (3.7)	630	383	176
母のみ又は母ときょうだいのみ	546 (1.7)	241	187	118
母と祖父母等	608 (1.9)	370	186	52
父のみ又は父ときょうだいのみ	17 (0.1)	8	5	4
父と祖父母等	18 (0.1)	11	5	2
その他	9 (0.0)	9	-	-

8 利用上の注意

(1) 表章記号の規約

計数のない場合	—
計数不明又は計数を表章することが不適当な場合	…
統計項目のあり得ない場合	・
比率が微少(0.05未満)の場合	0.0

(2) この概況に掲載の数値は四捨五入しているため、内訳の合計が総数に合わない場合がある。

なお、各図は集計客体が異なるため、脚注にそれぞれ総数を掲載している。

(3) この概況に掲載の21世紀出生児縦断調査(平成13年出生児)(以下、「平成13年出生児調査」という。)の数値は、第3回21世紀出生児縦断調査(平成22年出生児)(以下、「平成22年出生児調査」という。)と比較対照を行うため、平成15年に実施した第3回平成13年出生児調査を特別に集計したものである。

なお、平成13年出生児調査は、平成13年(2001年)1月10日から同月17日の間及び同年7月10日から同月17日の間に出生した子を対象としたもので、その第3回における対象児は2歳6か月である。